

(3) 身近な水環境の全国一斉調査

1) 身近な水環境の全国一斉調査とは

河川や水辺など身近な水環境の保全や再生に関する市民の意識が高まる中、1980年代半ばから、市民や学校の子供たちによる身近な川の一斉調査が多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきた。しかし、当初は調査の方法、項目の不統一、測定精度が保証されないなどの問題点があり、市民調査の有効活用は難しい状況であった。

統一的な調査マニュアルが作成され、これに基づいた一斉調査として「身近な水環境の全国一斉調査」が実施されるようになったのは平成16年からであり、その後毎年、市民団体等が協働で全国の河川や水辺など身近な水環境の水質を一斉に調査し、「全国水環境マップ」としてとりまとめた結果を公表している。

2) 調査のまとめ

令和2年の調査の概要は以下のとおりである。

表- 28 身近な水環境の全国一斉調査の概要

| | 全国統一日に実施された調査 | 国内で実施された全ての調査 | 備考 |
|-------|-------------------|----------------|--------------|
| 調査日 | 令和2年6月7日(日)を中心に実施 | 令和2年5月7日～9月11日 | — |
| 参加団体数 | 262団体(個人参加含む) | 577団体 | 令和元年は697団体 |
| 調査地点数 | 1,289地点 | 3,802地点 | 令和元年は6,241地点 |

令和2年調査ではCODの水質結果では、全国のデータの割合がCOD 0～3mg/L未満が46%、3～6mg/L未満が38%、6mg/L以上が16%で、昨年につきCOD値が0～3mg/Lの地点が多い結果となった。なお、令和2年調査においては新型コロナウイルス感染症の影響により、参加団体数、調査地点数ともに大きく減少している。参加者のコメントから調査の時期にはまだまだ新型コロナウイルスの影響があり、水辺にも人がまばらだったようである。調査者も調査時間をなるべく短くするために、生物調査やその他の観察は行わず、水質のみとしたところが多かった模様である。

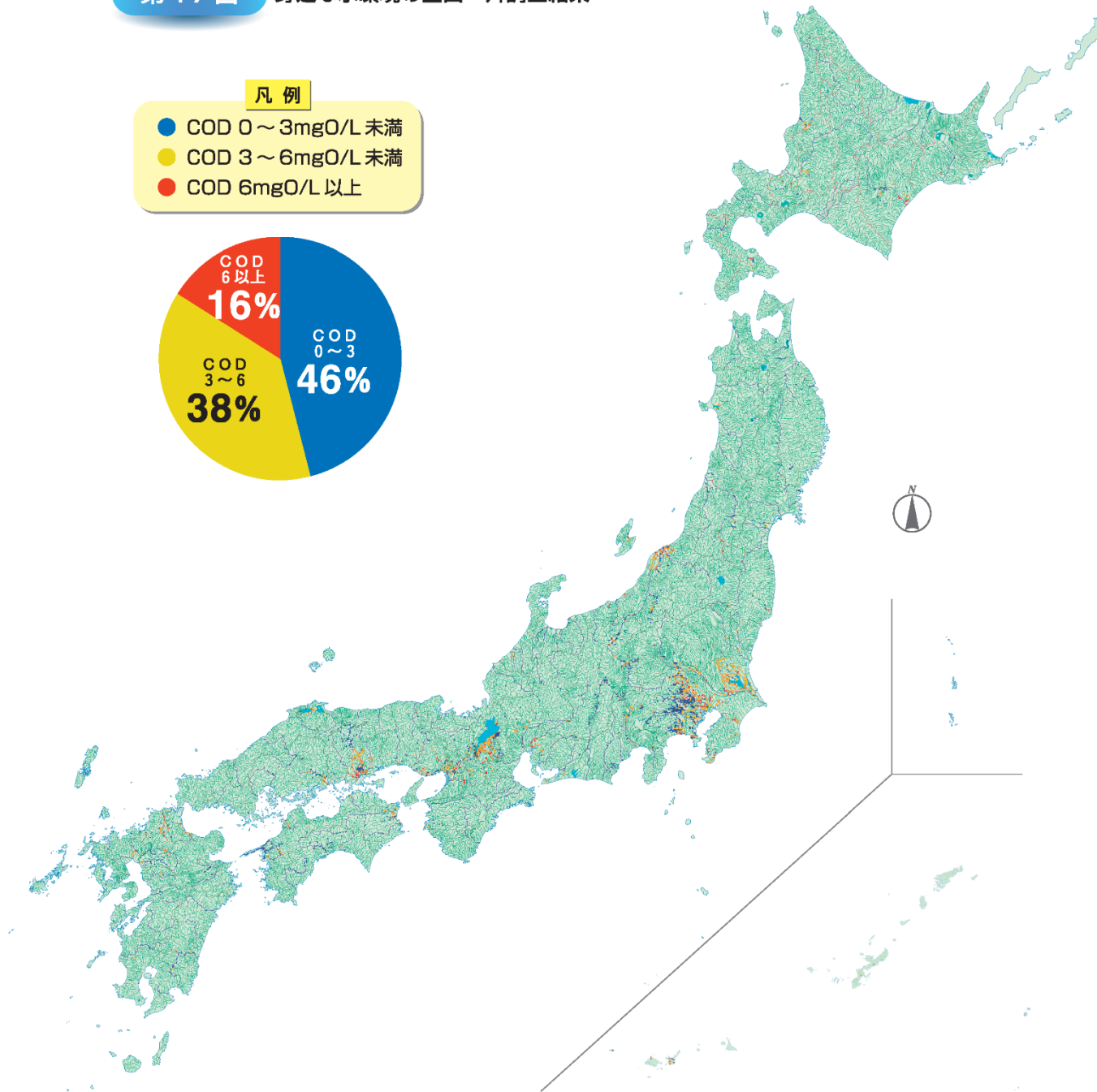
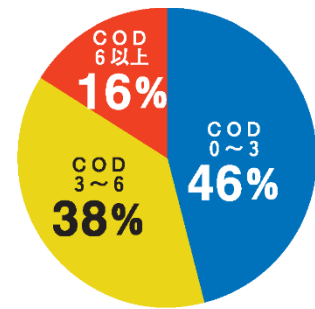
令和2年の全国水環境マップを図- 26に示す。

2020全国水環境マップ

第17回 身近な水環境の全国一斉調査結果

凡例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上



2004全国水環境マップ

第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果
 水質調査の結果と分布

凡例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上



調査地点数と結果の推移

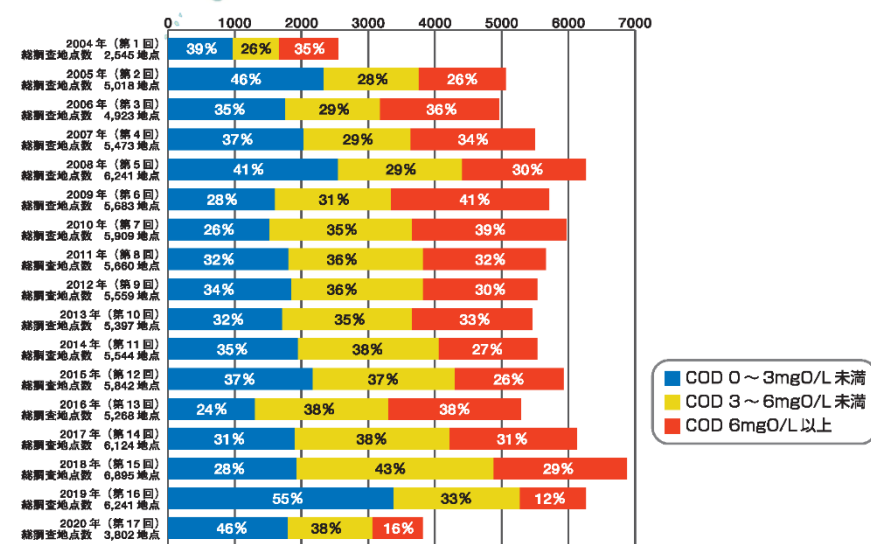


図-26 全国水環境マップ